

万博の思い出

大阪万博に家族、親せき一同で行った覚えがあります。私が10歳の頃でした。いまだに憶えているのは入場チケットは何かの福引で当たって手に入れたことと、当日はとにかく混んでいて迷子にならないように気をつけているのが精いっぱいだったことです。

みずき様

子供の時につくば博の企業展示で「日本人の旅行者がジャングルの奥地の現地人とそれぞれの言語で喋ってるのに通じてる」という未来予測の映像を見た。今Google翻訳やポケトークを使うとそれを思い出し、あの時の未来が今現実になったなあと感じています。

園様

中学3年生の夏休み、父と弟と私の3人で観に行ったことを思い出します。思い出はとにかく暑かったことと途方もなく長い時間並んだことしか覚えていません。各国のパビリオンがどんな展示内容だったか、さっぱり記憶がありません。

夏男様

現在2度目の万博が大阪で行われているので、万博といえば関西となりがちですが、関東の人間にとっては1985年のつくば万博が一番思い出深いです。筑波山、筑波大学に加えて、この万博で筑波の名が全国区になったように思います。

チャコ様

55年前あれは高校入学前の春休み。大阪まで母が私と友人3人を引率。その後、母は故郷の和歌山へ行き、私たち3人だけで大阪のホテルに泊まり万博会場を回りました。月の岩石が展示されたアメリカ館は3時間待ちで断念しましたが、どのパビリオンも珍しく驚きの連続でした。

まさえ様

1970年私は15才。大阪万博に修学旅行で行った。外国人を見つけてはサインを書いてもらった。当時は外国人が珍しかった時代。私の万博の思い出です。よっしー様

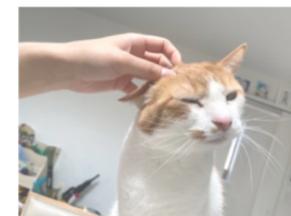
今日から6月、青葉若葉の緑が色濃くなる時期となりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。早いものであと一カ月も経てば今年も半分が過ぎ暑い暑い夏の訪れです。毎年の猛暑は身体に堪えますが、青い空！青い海！照りつける太陽！とくると自然とテンションがあがるのもこの季節。そこで今月のお題はそんな夏を代表する「夏の食べ物」について、皆様の思い出やエピソードを大募集！採用された方にはグルメセットをプレゼント♪沢山のご応募お待ちしております。



ASA川口中央の招き猫 ロンシャン君の不定期日記

★プロフィール☆
名 前：ロンシャン君
住まい：川口市赤山
朝日新聞販売店

vol.130



こんにちはロンシャンです！
今日から6月、まもなく梅雨入りの季節ですが皆さんお元気ですか？先月の日記でもお伝えしましたが家族が旅行に行っている間、一日だけペットシッターさんに来てもらいました。



いつもの妹弟とは違う大人の優しいお姉さんにいっぱい遊んで可愛がってもらいました♪
ボクは人間が大好きで久しぶりに家族以外の人と遊べたのでとっても楽しかったです！
皆さんもうすぐ夏を迎えて暑い日が続きますので体調を崩さないよう気をつけてくださいね。
それではまた来月ロンシャン日記でお会いしましょう♪



「トランプの最強カード」と
検索した答えは
朝日新聞立川支局員 山浦正敬

「トランプの最強のカード」とインターネットで検索してみました。「関税」と思いかも知れませんが、表示されたのは「スPEEDのEES」でした。トランプカードの話です。マークや数字、記号にも順位があって「♠のA」が最強と解説されます。

米国のトランプ大統領が発動した「相互関税」などで世界が大揺れです。米国の再生を名目にした一方的にも見える切り札に、各地の株式市場はすぐに混乱に陥りました。

低金利時代に貯蓄から投資へ向かった人たちがとっては株価の変動が気になります。投資信託や株式などを運用する確定拠出年金制度を思えば、老後の生活にも影響しかねません。他人事ではありません。

戦後経済の軸として積み上げられた「自由主義」をガラガラと崩すような施策にもみえてしまいます。

「カード」は、第2次世界大戦後の世界秩序にも切られます。トランプ大統領は、ロシアによるウクライナ侵攻や中東のハマスとイスラエルの紛争の解決を仲介しようとしたが、簡単に「停戦」につながりません。

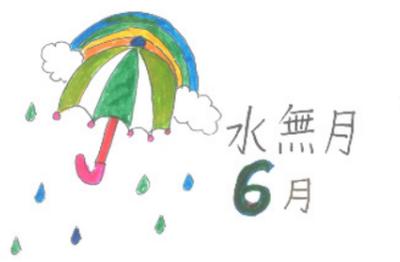
同僚記者は小学生の子どもから「トランプさんは誰の味方なの？」と尋ねられたそうです。どう答えたらいいのでしょうか。

「最強のカード」も絶対ではありません。

「大富豪」では通常「2」が最強です。ゲームやローカルルールによって「最強」は変わります。

このコラムが掲載される頃、世界が落ち着いていることを願ってやみません。

イラストギャラリー



素敵なイラストを
ありがとうございます♪

カンパネラ様

11 中学受験の意義 私たちはこう考えた

東大理Ⅲに3男1女が合格した佐藤ママと、カリスマきょうこ先生がコラボ。親の役割、中学受験で鍛えられる力、6年生秋からの心構えや直前期Q&Aまで、受験の不安や悩みが晴れる二人の「ぶっちゃけ話」を収録。好評発売中

佐藤亮子 安浪京子

朝日新聞のデジタル版は 宅配購読中の皆様へ

+500円で5倍の情報量!

無限に広がるデジタルの世界

紙面にない記事や動画も

デジタル版には紙面に載せきれなかった記事や写真が盛りだくさん。例えば「令和の米騒動」のニュースは2025年、紙面には16本掲載されていましたが、デジタル版には31本配信されていました。

気になる記事を一気に読み

5年分さくっと記事検索

デジタル版では過去5年分の記事が読めます。気になっていた連載を一気に読んだり、キーワードや記者名で検索したりできます。

↓↓お申し込みはこちらから

スマホのカメラを起動し、2次元コードにかざして読み取り

読み取りが成功すると、リンクが表示されるので、タップ

<https://t.asahi.com/asa25us>

雑草魂よ、どこまでも

朝日新聞論説委員 西山 良太郎

エリートランナーとは無縁の環境ですが、それを遠回りとか、無駄とは考えたくありません。

中学時代に全国都道府県対抗女子駅伝に出場した経験がありますが、高校でけがを重ねたこともあり、大学では陸上以外の進路を考えていたそうです。

しかし、これが安易に大人がひくレールを走るのではなく、自己に問い続け、熟考する時間となったのでしょうか。本当は何がしたいのか、得意なのは何か。そこから選んだのが実情団でのマラソン挑戦でした。

自らつてを探し、売り込んできた小林選手の内面を見通して、同好会出身という異例の入部を受け入れた名門実業団の眼力も、評価したいところです。

自立と自律を秘めた成長の物語はやっぱり、「雑草魂」と呼びたくなります。

スポーツ記事で頼りがちな言い回しに「雑草」という言葉があります。例えばエリート育ちに対する「雑草育ち」といった形です。

「でも、どんな草にも名前がある。雑草という草はありません」と大学の指導者に投げかけられ、返事に窮した記憶があります。

そんなやりとりを思い出したのは、大塚製菓の2年目、女子マラソンの小林香菜選手の経歴を見たせいでした。今年1月の大阪国際女子で日本人トップの2位となり、9月に東京で開かれる世界選手権の日本代表に選ばれました。

目につくのは早大時代に体育会ではなく、同好会に所属していたことです。指導者はおらず、ホノルルマラソン完走を目指して週1回実居周辺を走るのが活動だったそうです。